

入場無料
定員20名

東京大学×伝承館 体験活動プログラム 共同研究フォーラム2025

帰還困難区域の「街づくり」を考える。

東京大学及び東日本大震災・原子力災害伝承館では、東京大学の学部学生・大学院学生とともに「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」と題して行ってきた共同研究についてフォーラムを実施します。

本フォーラムでは、東京大学の「体験活動プログラム（Hands-on Activities）」の参加者が自治体内に帰還困難区域を持つ浪江町・双葉町・大熊町・富岡町についての調査、現地フィールドワーク等を重ね、4町の「街づくり」について研究した成果を報告します。

東日本大震災・原子力災害伝承館では、研究部門所属スタッフがアドバイザーとしてその調査等をサポートしながら、共同研究を実施しました。ご関心のある方、どなたでもご参加頂けます。

双葉町産業交流センター 406号室

2025年 10月4日 土 12:00-13:40

12:00 開会の言葉・趣旨説明

開沼博（当館上級研究員・東京大学大学院情報学環准教授）

12:05 プログラム「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」について

藤澤実波（東京大学公共政策大学院）

12:10 成果報告 第1セッション（産業班・教育班）

・復興産業団地は“同じ”じゃない？——旧避難自治体で分かれた業種構成、その分岐点とは

中山恭吾（東京大学教養学部）、山際美愛（同学部）、對馬光汰（同学部）

・旧避難自治体では「ふるさと」をどう学び続けてきたのか？——「ふるさと創造学」十余年の実践現場から

森本聡太（東京大学教養学部）、神村聡介（同学部）、磯崎麻李花（同学部）、寺田幸歩（同学部）、浦田日和（東京大学公共政策大学院）

12:30 成果報告 第2セッション（福島部・宿泊施設研究チーム）

・なぜ若者は福島を訪れ、何を学ぶのか——AIDASモデルを用いた復興学習行動プロセス分析——

園田希夢（東京大学教養学部）、戸田日々輝（同学部）

・原発被災地域において、「宿泊施設」はどう整備されてきたか？—事業者を取り巻く制度的条件に着目して—

根本豪己（東京大学工学部）、奥山泰冴（福島大学共生システム理工学研究科）、吉田豊（筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院）、佐藤彩乃（東京大学大学院情報学環）

（12:50~13:05 休憩）

13:05 歴代主催者パネルトーク

司会：開沼博（当館上級研究員・東京大学大学院情報学環准教授）

山田拓実（東京大学大学院情報学環客員研究員/2023年度主催者）、根本豪己（東京大学工学部/2024年度主催者）、藤澤実波（同公共政策大学院/2025年度主催者）

13:30 総括・閉会の言葉

・参加希望者が定員を上回った場合は抽選とさせていただきます。
・無断での録音、動画撮影はご遠慮ください。

